

資料館だより

発行

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 東京00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

人間の尊厳回復と共生を目指す国際交流会議

——らい予防法廃止を記念して——

第一回国際
会議は同年、
中国の広州市

た。
月に結成され
一九九四年九
者が参加して、
カなどの関係
リス、アメリ

ユーバ、イギ
ブラジル、キ
韓国、インド、

目的に、中国
取組むことを
会復帰問題に
復者たちの社

きた患者や回
差別を受けて
で、長年偏見
による国際組
者や回復者に

ハンセン病患
は世界各国の
(アイデア)

IDEA
で、第二回の国際会議は九
六年九月に南スペインで開
催されたが、日本からは共
に有志が参加した。

「人間の尊厳回復」の観点
からのハンセン病対策を協
議し東京宣言を採択すると
ともに、患者・回復者の国

止の記念事業として、患
者・回復者が一堂に会して
「人間の尊厳回復」の観点

次(1)主題 らい予防法の廃
催されることになった。
次の要領で六月に日本で開
催されることになった。

今年「人間の尊厳回復
と共生を目指す国際交流会
議」——らい予防法廃止を
記念して——をテーマに、

格字子の着物などが出品さ
れ、有志が参加した。
I D E A 共催による「生き
る尊厳の確立」展が開催さ
れ、日本からも写真、園券

本部においてWHO(世界
保健機関)主催、日本財団
I D E A 共催による「生き
る尊厳の確立」展が開催さ
れ、日本からも写真、園券

昨年十月三十日には国連
本部においてWHO(世界
保健機関)主催、日本財団
I D E A 共催による「生き
る尊厳の確立」展が開催さ
れ、日本からも写真、園券



国連本部でのIDEA交流晩餐会

呼びかけてい
の参加を
八百人、一般
防会館は定員
協力財団、砂
笹川記念保健
は厚生省、(財
楓協会、後援
は全療協、I
は全療協、I
て閉会。主催
宣言を採択し
を發表する。

その後東京
を發表する。
遍化した対策
が参加し、自己の経験を普
者五人、全療協関係者一人
スカッションには海外招聘
式、基調講演、テーブルデ
から四時三十分まで、開会
の国際交流会議は午後一時
六月二十日、砂防会館で
的に著名な方を選考中。

六月二十日、砂防会館で
的に著名な方を選考中。
米(国)、基調講演者は国際
韓国、インド、エチオピア、
ワイ、フィリピン、中国、
推薦の九人(ブラジル、ハ
推(3)海外招聘者はIDEA
養所訪問交流

養所訪問交流
推薦の九人(ブラジル、ハ
ワイ、フィリピン、中国、
韓国、インド、エチオピア、
米(国)、基調講演者は国際
的に著名な方を選考中。

六月二十日、砂防会館で
的に著名な方を選考中。
米(国)、基調講演者は国際
韓国、インド、エチオピア、
ワイ、フィリピン、中国、
推薦の九人(ブラジル、ハ
推(3)海外招聘者はIDEA
養所訪問交流

資料館5周年記念行事は秋に 写真、絵画展、記録集など

ンセン病の歴史を探る」
 ◎三周年・シンポジウム
 「これからをどう生きるか」
 ◎四周年・記録映画会「見えない壁を越えて」
 今年は五周年記念になるので、本来ならば当然記念行事を計画すべきであるがらい予防法が廃止になって

高松宮記念
 ハンセン病資
 料館は一九九
 三年にオーブ
 ンし、今年六
 月二十五日
 早くも開館五
 周年を迎える
 ことになった。
 毎年この日は
 次のような記
 念行事を開催
 して来た。
 ◎一周年・シ
 ンポジウム
 「らい予防法
 改正問題をめ
 ぐって」
 ◎二周年・フ
 オーラム「ハ

三年目、まだまだ多くの問
 題が残されているとはい
 うものの、資料館としては
 面取り上げる課題に苦慮し
 ている状態である。六月に
 はIDEAの国際交流会議
 が日本で行われることもあ
 り、藤楓協会、資料館が双
 方に関連している影響も若

干あると思われる。
 資料館第五十三回運営委
 員会(3月12日)では種々
 検討した結果、今年は六月
 には行事は行わず、秋に開
 館五周年記念行事として写
 真と絵画展を開くことを計
 画している。それとともに
 資料館開館から現在までの
 主な出来事を



見学を終って一休みの看護学生たち

まとめた記録
 集を出すこと
 も提起された。
 詳細につい
 ては次号(7
 月1日付)の
 資料館だより
 で紹介を行う
 予定である。
 ハンセン病
 資料館は毎週
 月曜日と金曜
 日、祭日が休
 みで、午後一
 時から四時ま
 でのため「開
 館時間が短か
 い」との苦言
 のある中で、
 入館者は年間

一万人のペースを保ってい
 る。今年二月末までの開館
 日数は一一六八日、入館者
 は四万六一〇八人、一日平
 均三九人となっている。そ
 のうち団体は七五一、二万
 二二〇三人で一団体平均は
 三十人程である。
 しかし現実には、多い時
 は、二、三団体が同時に来

館百数十人の時もあり、雨
 や曇の日など少ない時は二、
 三人ということもある。
 いずれにしろ、外国の人
 達や北海道から沖縄まで、
 全国の人が満遍なく来館す
 ることで、ハンセン病への
 理解と関心が徐々に広まっ
 てきていることを肌と感じ
 ている。

栗生楽泉園 思い出の写真展 星塚敬愛園 思い出の写真展

5月2日〜6月30日

資料館では毎年各園を写
 真で紹介する「昔むかし写
 真展」を開催してきたが、
 今年は次の要領で開催する
 ことになった。

栗生楽泉園・星塚敬愛園
 思い出の写真展
 期日・5月2日(土)〜6月30
 日(火)

菊池恵楓園・琵琶崎待労病
 院、96年〳〵邑久光明園・大
 島青松園、97年〳〵松丘保養
 園・長島愛生園である。
 来年の「思い出の写真展」
 は宮古南静園と沖繩愛楽園
 を予定している。

ハンセン病文学全集

場所・資料館研修展示室
 栗生楽泉園は昭和七年十一
 月十六日、星塚敬愛園は昭
 和十年十月二十八日設立

皓星社では十年來念願で
 あった「ハンセン病文学全
 集」の刊行を計画している。

なお今まで開館してきた
 写真展は、94年〳〵多磨全生
 園、神山復生病院、95年〳〵

内容は①小説②詩③俳句
 ・川柳④短歌⑤生活記録⑥
 闘争記録⑦論文⑧子供の作
 品⑨年表など十巻余の予定。

来館者の声

開館時間を長くして
一度は訪問すべき所

・教員 東京 32才 男性
ハンセン病のことは全く知らなかったのですが、歴史的なことでもよく分かり大変参考になった。次は生徒を連れて来ようと思う。

・会社員 小田原 25才 男
ハンセン病に対する知識のあるなしに関わらず、一度は訪問しておくべき場所である。様々な事柄について深く考えさせられた。

・学生 香川 21才 女性
もっと開館時間を長くしてほしい。人の文や話で間接的にしか知らなかったが実際に似て作ったものがあり分かりやすかった。ハンセン病のこと、ちゃんと関わりたいと思う。

・教員 新潟 53才 男性
差別と闘ってこられた方々のご苦労、病苦と闘ってこられた方々のご苦労のほんの一端に触れたように

思います。きつともつと深いものがあるのでしょうか

差別のない世の中になり
ますように。

・学生 横浜 23才 男性
本当にショックでした。私の二十三年間の生活は何不自由なく、本当の現実と向いあう必要がなかったか
らです。

それに対し
ハンセン病患者の人達は差別や偏見といった現実と向いあい、逃避することなく人生を強く生きています。いろいろな素晴らしい作品を残している。恵まれた環境で



何もせず、のうのうと生きてきた自分に恥じる思いがしました。

・学生 都内 22才 女性
とてもきれいで広く、資料もわかりやすく展示してあり見やすかったです。芸術作品にとってもあたたかいものを感じます。

ハンセン病のことについて大学のゼミでいろいろと学び、本も読みましたが、やはりここに来なければならぬと思います。今

何とも言えない思いです。

これから、私も社会福祉関係の仕事に就こうと思っていますのでハンセン病に

対する正しい知識をさらに深め、広く周囲の人々にも伝えたいと思います。お体を大切になさって頑張ってください。ありがとうございます。

また来たいです。

・会社員 東京 39才 女
エイズの報道を見ていてハンセン病に対する国の間違った行政が重なって見えってきます。病気への正しい知識が差別をなくす近道だとつくづく思いました。

長い間苦労されてきた元患者の方々が、社会復帰をされ、心安らかな人生を送ることを心より願います。

・教員 埼玉 39才 女性
胸が痛くなってしまいました。世の中どんどん進歩しても、たとえハンセン病がなくなっても、まだ苦し



記念写真を撮る

んでいる人たちのいること
悲しい歴史をあらためて考えました。

・学生 高崎 19才 女性
らい予防法が廃止になった今でも実際にハンセン病の偏見はつづいていてと思います。私は看護学生なので学校の友達に、ハンセン病の話(もちろん知っていると)をしてみてもまだまだ病名さえ知らない子が多くて、なんだか淋しく感じました。

知識不足やまちがった先入観が、このような痛々しい事実を残してしまったことを、私は悲しく思いました。人間が人間らしく生きられるように、このようなことは二度とあってはならないと思います。

第15回国際らい会議

— 9月に中国北京で —

「ハンセン病のない世界をめざして」

をテーマに第十五回国際らい会議が、九月七日〜十二日まで中国の北京国際コンベンションセンターで開催される。

世界救らい団体連合（ILEP）、世

界保健機関（WHO）の協力を得て、国際らい学会（ILA）が主催するもので、組織委員会には日本からは湯浅洋先生が入っている。案内書には、「一八九七年十月、ドイツのベルリンで第一回国際らい会議が開かれ、ハンセン博士を始め世界的な医学者が参加、単なる学会にとどまらず、その時直面していた深刻で現実的な問題を解決する実行案を見出すための会議だった」と述べている。

時らい患者の少女に出会い「私が奉仕しなければならぬのはこうした病者だ」と心に決めた。

一九一七（大正6）年五月、

リー女史の招きにより湯の沢で

事業を手伝うことになった。しかし、人口三〇〇人の部落で医者資格のない看護婦ではどうにもならず、リー女史に訴え十一月、服

さらに「以来一〇〇年間医学医療の進歩向上はめざましく、世界中のほとんどの国でハンセン病はもはや公衆衛生問題ではなくなつた——しかし乍ら一〇〇年前と同じようにハンセン病は今なお深刻な社会問題である。この病気の影響を受けた回復者、又その家族の様々な身体的、社会的、経済的、また精神的な苦しみは実に一〇〇〇年以上前からあまり変わっていない——」とも述べている。

部けさ医師を迎え「聖バルナバ病院」の看板を掲げ、患者の治療を始めた。大正十三年十月、服部け

会議では医学が伝染病としてのハンセン病に勝利したこと、その終止符を打つ時期を想定した現実的な制圧計画が討議されるものと思われる。

案内書では関係者、関心のある人の参加を呼びかけている。

ハンセン病の知識

愛知県衛生部保健予防課と藤楓協会愛知県支部は、この程「高校生のためのハンセン病の知識」のリーフ

全生病院に戻り一時勤務したが、大正十四年に光田健輔の援助を受け、草津に平屋を新築し「鈴蘭村」を開いた。

一九四一（昭16）年には

宮城県に患者家族の児童保育所（第二鈴蘭園）を開設した。昭和三十三年六月、ナイチンゲール賞を受賞。昭和五十三年八十五才で昇天された。

を八万枚作成、県下の県立一六三校、市立一五校、私立五六校の各高校に配布しハンセン病への正しい理解を訴えている。

在園者の聞きがき集

朝日新聞大阪厚生文化事業団では、社会福祉・医療事業団助成事業の一環として、全国療養所の「ハンセン病在園者の聞き書き集」を出すための作業を進めている。

写真とルポの記録集

写真とルポでハンセン病療養所の昔と今を記録する書名「収容所列島——ハンセン病療養所のと きながれ（仮題）」を出版すべく、解放出版社では全療協の協力を要請して取材をすすめている。

◎あ тогоき

彼岸から四月にかけて全生園内、資料館周辺には梅菜の花、椿、こぶし、沈丁花、緋寒桜、桜などが次々と咲き春爛漫である。散策がてら資料館へどうぞ。（修）



三上千代は山形県新庄藩士族の家に生まれた。山形高等女学校を卒業し、一九一〇（明治43）年十七才の時、南伊豆の伝道館に勤務伊豆半島で無教会主義の伝道をつねとしていた。その

先駆者⑮

三上千代

一八九一—一九七八